

令和3年度第3回立川市総合教育会議 議事録

開催日時 令和4年1月13日（木曜日） 15時30分～16時27分

開催場所 立川市役所302会議室

出席者 [構成員] 清水庄平（市長）、小町邦彦（教育長）、石本一弘（教育長職務代理者）、
伊藤憲春（教育委員）、嶋田敦子（教育委員）、小林章子（教育委員）、
[事務局] 栗原寛（総合政策部長）、大野茂（教育部長）、浅見知明（総合政策部企画政策課長）、小林直弘（教育部教育総務課長）、前田元（教育部指導課長）、寺田良太（統括指導主事）、

議事日程 1. 新教育長職務代理者挨拶

2. 議題

（1）令和4年度の学校教育の主な取組について

（2）令和3年度「立川市児童会・生徒会サミット2021」について

（3）立川教育フォーラムについて

3. その他

議事録

（市長）

それでは、15時30分となりましたので、ただいまから令和3年度第3回立川市総合教育会議を開催いたします。

1. 新教育長職務代理者挨拶

（市長）議題に入る前に、令和3年12月24日付で石本一弘氏が教育長職務代理者に就任されましたので、御挨拶をいただきたいと存じます。それでは、石本教育長職務代理者、御挨拶をお願いいたします。

（石本教育長職務代理者）

前任の伊藤委員から引き継ぎまして、12月24日に拝命いたしました。もとより力はございませんし、経験も不十分でございますけれども、誠心誠意、職務に当たらせていただきたくと覚悟しております。よろしくお願ひいたします。

（市長）

ありがとうございました。どうぞ皆さん、よろしくお願ひいたします。

2. 議題

（1）令和4年度の学校教育の主な取組について

（市長）

それでは、議題に入らせていただきます。本日の会議は、議題が3件ございます。議事進行につきまして御協力ををお願いいたします。

まず議題の（1）令和4年度の学校教育の主な取組についてでございます。事務局の指導課長から説明をいたします。

（指導課長）

それでは、令和4年度学校教育の主な取組について御説明をいたします。資料を御覧ください。

この資料は、令和3年12月9日に開催されました、第23回定例教育委員会の中でまとめてさせていただきました令和4年度立川市教育委員会学校教育の指針に基づいて、まとめてさせていただきました。

まず上段の令和4年度の学校教育のポイントを御覧ください。

来年度の大きなポイントは3点ございます。1点目は、「まちづくりは人づくり、人づくりは未来づくり、未来づくりは学校から」の理念の具現化に向け、コミュニティ・スクールの充実を図っていくことでございます。

2点目は、地域社会の担い手の育成を目指し、新しい教科「立川市民科」の学習をスタートさせ、地域に根差した探究的な学習の充実を図ることでございます。

3点目は、学校教育の教育活動全体を通して、生命を尊重する教育の徹底を図ることでございます。

こうした次年度のポイントを踏まえ、3つの基本方針の下、大きく9つの基本政策を展開してまいります。

まず、基本方針の1、学校教育の充実でございます。1番の囲みを御覧ください。学力の向上でございます。学力の向上では、成果が見られているこれまでの授業改善や、こうした取組を継続するとともに、1人1台タブレット端末を活用した個に応じた学習支援の充実を図ってまいります。また、外国語・外国語活動の推進として、TGGの全小学校での実施をしてまいります。

続きまして、2番の囲みでございます。2番、豊かな心を育むための教育の推進でございます。生命を尊重する教育の徹底として、SOSを出す力の育成を図ってまいります。また、不登校対策の取組も推進してまいります。

続きまして、3番の囲みでございます。体力の向上と健康づくりの促進についてです。体育の授業改善を進めるとともに、がん教育の充実等を図ってまいります。

続きまして、中段です。4番の囲みです。特別支援教育の推進でございます。特別支援教育の推進については、教育支援課との連携をより緊密なものとし、早期連携・早期支援の充実を図ってまいります。

続きまして、5番の学校運営の充実の囲みでございます。不登校対策の取組の充実を図るために、教育支援センターによる支援の充実とともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を継続し、児童、生徒への支援をより丁寧に進めてまいります。

続きまして、6番の囲みです。教育環境の充実になります。こちらについては、教育総務課、学務課との円滑な連携の下、各学校を支援してまいります。

続きまして、下段の7番の囲みになります。ネットワーク型の学校経営システムの拡充でございます。新しい教科、立川市民科の学習をスタートさせ、地域に根差した探究的な学びの充実を図るとともに、各学校において、立川市民科公開講座を実施し、理解啓発を図ってまいります。

8番、幼保小中連携の推進については、子ども同士の交流を中心としてスタートカリ

キュラムの活用による小1問題、中1ギャップへの対応を進めてまいります。

9番、児童・生徒の安全・安心の確保については、安全教育プログラムの活用を中心とした安全教育の推進を図ってまいります。

説明は以上となります。

(市長)

それでは、ただいまの説明につきまして御質問のある方、よろしくお願ひいたします。

教育長。

(教育長)

それでは最初に、口切りということでお話しさせていただきます。立川市民科の教科化ということで、現在、文科省に最終的な申請を出して、その通知を待っているところですけれども、子どもたちの探究的な学びを深めたいということとの狙いの中で、当初、取り組んでまいりました。子どもたちも地域を題材にして、様々な新たな発見をしたりして、それを学びに変えて、興味関心を含めましてモチベーションを高めながら学びを深めたり、広げたりしてくれています。それは子どもたちの実践を支えてくださっている先生方はもとより、地域の皆さんのおかげかなというふうに思っています。

そんな中、私が現場を見させていただいて、子どもたちの学びが充実していることは確かですけれども、それを通して保護者ばかりではなく、地域の方も元気になっているという報告を受けているわけでございます。

例えば、商店街のある学校では、何とか商店街を盛り上げたいということで、自分たちがPRマンになって、PRのビデオをつくろうだとか、商店街に自分たちの絵の作品を飾ってもらったりして、商店街を明るくしたり、それから、花を飾っている学校もございます。そのような形で、学校の中だけにとどまらず、地域も全体をよりよくということで、子どもたちの活動を通して大人の側が逆に学校は地域全体の拠点であると、改めて認識して、それを応援する輪が学校の外まで広がってくるというような実践が一つあるのかなというふうに思っています。

もう一つが、意外と地域の伝統とか、よさが途絶えがちになつていて、例えば密接な地区で言うと、市長がいらっしゃって恐縮でございますけれども、麦だとか、みそだとか、市長も手作りされているというお話をございます。そういったものがなかなか若い世代に引き継がれないということがございまして、学校の市民科の中で取り組んで、子どもたちが地域の方に御指導いただきながら、実際に麦を作ったり、みそを造ったり、それからまた、玉川上水のほうからホタルも養殖して放ったりとか、本当に地域のよさをもう一度自分たちがつなげていくんだということで、子どもたちが地域の方のご指導をいただきながら取り組んで、それが若いお父さん、お母さん世代に新たな、逆に再発見というよりも、新たな発見ということで、地域を見直すきっかけになったという御報告も学校からはいただいているわけでございます。

そのように、立川市民科という地域を題材にした学びから始まったわけですけれども、学校、それから、子どもたちも元気になっているんですが、それを通じて地域も元気になっていくということの実践がありますので、そんな方向性を令和4年度は果たしていくと、よりよく立川市民科が起点として、学校教育の充実はもちろん、地域の活性化、

地域にお住まいの方たちの元気な一つのやりがいだとか、生きがいだとか、そういうしたものにも結びついてくるかなというふうに思っているところでございます。

これも新しい取組で、さらに学校現場の実践をしたいなというふうに思っていますし、様々な地域特性を加えた工夫が生まれておりますので、そういうところに子どもたちの頑張り、それから、先生方の工夫、それから、地域の方の応援、それを教育委員会としても全体的にバックアップできればいいかなというふうに思っているところでございます。

最初にちょっと御発言させていただきまして、ありがとうございます。

(市長)

ありがとうございました。説明にタブレットの話が出たんですが、私の孫が5年生と3年生において、最初は1人1台じゃなかったんですけど、1人1台タブレットになってから、得意げに休みの前日にかばんの中へ入れて持ってきて、私に見せるんですよ、いいでしょうね。そんなこともありました。

その話を聞いて、実は、それまでよりも、学校の成績がとっても上がってきたんですね。学校の運動会のときに学校の先生からは、タブレットが1人1台環境になってとっても子どもたちが興味を持って、夢中で勉強をするようになりました、というお話を聞いてきまして、ああ、そうだったのかと納得したわけであります。

それから、この例に限らないのですけど、環境が変わると子どもはいい方向にすすむことと、あまりいい方向にいかないことと、どちらかに分かれてしまうみたいですね。それでも、おおむね環境が変わると、刺激されて働きが活発化するのは間違いないようですね。

ですから、特にタブレットなんておもちゃがわりにしてばかりいるのかなと思って、先生に伺ったら、いやいやとんでもない、一生懸命やっていますよと。市長の時代とは全く違いますからねと、おまけまでいただきました。

ほかに、ただいまのタブレットのことを含めながら御意見などございましたら、どうぞ御発言いただきたいと思いますけれども。

嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明ありがとうございました。市長のお孫さんもタブレットを有効に使正在しているということで、本当によかったなと思います。ありがとうございます。

今回のこの主な取組を見させていただいて、指針のときもそうですけれども、生命を尊重する教育の徹底を図るということを入れてくださったことは、私は本当にすばらしいことだなと思っております。ありがとうございます。

それで、基本方針Ⅰの2の(1)の①のところで、先ほど前田指導課長からもありましたけれども、SOSを出す力の育成ということで、本当に、これは今の悩んでいる子どもたちに一番必要なことかなと思いますので、くれぐれもよろしくお願ひしたいと思います。

それと同時に、指針のほうではSOSを受け止め支援する力というのが入っていましだけれども、やはり余裕がある子どもたちは、SOSを受け止める力が育っていると思

いますので、出す力、受け止める力、両方の力が育ってくると本当にすばらしいなと思います。

それと、立川市民科のところで、立川市民科公開講座の実施による啓発となっているんですけども、私は、ちょっとこの「啓発」という言葉は、少ししっくりこないような気がしてしまったんですが。ちょっと「啓発」という言葉を調べてみると、知識を開き起こすこととか、無知な人を教え導き知識を与えることなどと辞書には記載があるようです。解釈はいろいろできるとは思うんですけども、無知な人を教え導くような意味に捉えられると少しもったいかなというふうに思いますので、もう少し分かりやすい周知ですか、推進ですか、そういう言葉に置き換えていただいてもいいのかなというふうに思いました。

以上です。ありがとうございます。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

分かりました。ありがとうございます。市民科については、来年度、本当に教科化のスタートになりますので、そのことをよく知っていただければというような思いで、今、お示しした言葉を使っていただいているけれども、御覧いただいてお分かりいただけるように、まだ案ということで、確定のものについては、また3月の議会等に向けて準備してまいりたいというふうに思ってございますので、文言については、いただいた御意見を踏まえながら、より適切な言葉があれば、使っていきたいなというふうに思います。

以上です。

(市長)

伊藤委員。

(伊藤委員)

御説明ありがとうございます。昨年のちょうど1月ですか、大綱が策定されまして、それに沿った形でのとても分かりやすい、いい取組であるというふうには考えておりました。1点だけ、ちょっと気になるところというか、災害について、9のところで、最近いろいろなことが言われていることもありますので、この災害について、いざというときにやはり中学生の力というのをもうちょっと信じて私はいるので、この辺のところの記述ももう1行ぐらい書いていただければありがたいかなというふうに思っております。

以上でございます。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

表現のあり方はいろいろ考えながら検討させていただければというふうに思います。

(市長)

石本委員。

(石本教育長職務代理者)

ありがとうございました。学力向上については、ぜひ私も宣伝していきたいなと思って、(5)の外国語活動のところですけど、T G G、名前は言ってしまってもいいんですかね、TOKYO GLOBAL GATEWAY、いよいよ立川に来年の1月スタートといううれしいお話も伺っていますので、今からわくわくしていますけども、よろしくお願ひしたいと思います。大いに活用して、英語大好きな子どもたちをどんどん排出していただきたいなというふうに思います。

それから、2番の豊かな心を育むでも、先ほど嶋田委員もおっしゃっていましたけども、SOSを出す力の育成ということで、やっぱり先生たちの本当にお力が必要だと思います。悩んだり苦しんでいるお子さんというのは、得てして自分が悪いと思ってしまうようなので、こんな自分の性格だから例えば学校に行きづらくなったりいじめられているというふうに思っちゃうという。

そうじゃなくて、先ほどもお話がありましたように、仲間が気づいてあげるということもそうですし、それから、みんなそれぞれ違って、それぞれ皆さんあるんだよということを先生方にも指導していただいていると思うんですけど、そういう日常の学校生活の中で1人も本当にもう取りこぼすことがないというか、そういう推進のためにも、SOSを出す子ども自身がそういう力をつけるということと、それから、友達にも気づける、そういう力をぜひ養っていただきたいなと。

あと、立川は増員していただきてありがとうございますけど、SSWの力が本当に、今、重要になっていまして、どうぞできることならさらにまた増員に向けてお願ひしたいなというふうに思っています。

それから、余談ですけども、体力向上のところにも書いてありますが、立川は他地区に先駆けて本当にもう今月から一般の人までワクチン接種していただけると、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

この内容ですけれども、定例会で何度か協議した学校教育の指針、文章がいっぱいだったものが、これだけのスペースに整理されていて、とても分かりやすくなっていると思います。ありがとうございます。

それで、学校教育のポイントというのがありますけれども、私はやっぱり新しいことにもポイントを置いていただきたいということで、市民科はもちろんです。市民科に関しては、今までの蓄積もありますので、ただ教科化になってやはり一歩前進してほしいと思っています。どんな内容でどのように進めるか、今までの実績を踏まえた上で新たな市民科として踏み出していっていただきたいなというふうに思っています。

それから、新しいことで、先ほど出ました外国語ですけれども、今、御説明で小学校が見学というか参加するというお話で、中学校のほうは、ホームページを見ますと小学生と中学生を対象にしているとありましたので、中学生はどうなのかしらというふうに思っていますので、お聞きします。

あとは、昨年、残念だったことがありましたので、それは二度と繰り返してはいけないことでありますので、そういうことは重点的にポイントを置いていただきたい。それは、先ほど来、出ていますけれども、SOSを出す力ですね。いろいろな人が関わって、いろいろな人が何かの関わりがあれば、少しはSOSを出したい、出している子どもの助けになるんじやないか、苦しいことがあったときに誰かが気がついてくれる、誰かが手を差し伸べてくれる、そんなことが大事ですので、SSWもそうですけれども、たくさんの大人が関わるということも大事かと思っています。

あと、残念だったことは、情報セキュリティのことでのこと、ここにも基本方針Ⅱの6のところに出ていますけれども、いろいろな危険が潜んでいまして、残念だったのは人的なミスですね。それを繰り返さないようにポイントを置いていただきたいというふうに思っています。

以上です。

(市長)

大きく3つありました。指導課長。

(指導課長)

それでは、まずTOKYO GLOBAL GATEWAYの関係等でございますけれども、本市のほうでは、小学校に外国語活動が導入されるに当たって、小学生がそういった体験活動が充実できるように、これまで市のほうで補助として支援をさせていただいていた部分がございます。それは来年度、小学校のほうに継続させていただければというふうな形になりました。

そういった中で、中学生は、一度は今ある青海のほうを経験しているというような状況の中で、当然、各学校で工夫しながら活用というのは考えられているかなというふうに思っているところでございます。

また、子どもたちの命に関わる部分と思うんですけども、子どもたち自身がつらいときに、つらいと言つていいんだよというのを、リラックスした状態でどういうふうに分かってもらえるのかなというふうに指導していくのが大事かなというふうに捉えてございます。私どももそうですけども、しんどいときには、しんどいと言えるだけで随分心が軽くなるというふうに思いますので、そういった子どもたちが安心したつながりの中で学校生活を過ごしてもらえるような、そういった学校全体の雰囲気づくりというのを、各学校と協力しながらつくっていけるように支援していくというのが大事かなというふうに思っています。

手始めとして、例えばタブレット端末、1人1台導入されたところでございますので、それを使った簡単なアンケートみたいなものが定期的に行なうことができれば、気軽に、しかも本市の場合、機密性が高いシステムが導入されていますので、子どもたちは誰にも見られないで、安心して先生にだけつぶやける、そういうようなことで、少しずつそういう子もたちがつらいときにつらいと言えるような雰囲気というのをつくっていかなければなということで、今月からちょっとした工夫ですけれども始めて、来年度、徹底できるようにしていけたらいいなというふうに思ってございます。

また、セキュリティの部分については、もう御指摘のとおりかというふうに思ってご

ざいます。運用する大人の責任でございますので、そういった部分はしっかりとできるよう厳しく指導を徹底してまいりたいというふうに考えてございます。

以上です。

(2) 令和3年度「立川市児童会・生徒会サミット2021」について

(市長)

よろしいですか。続きまして、(2)の令和3年度「立川市児童会・生徒会サミット2021」についてです。

事務局の指導課長から説明をお願いいたします。

(指導課長)

スクリーンを使いますので、御移動のほうをお願いいたします。

それでは、令和3年度の児童会・生徒会サミットについて御報告いたします。

まず、生徒会サミットです。12月4日に開催をいたしました。参加者は、各中学校の代表26名、会場は、この302会議室で行いました。

目的は、生徒が協働することを通して、集団や社会の形成者としての自覚と責任を持って自立的に行動する力や立川市民力を育成するなどといったものでございます。

議題は、持続可能な開発目標SDGsにチャレンジとしました。当日の流れは、小町教育長の挨拶、グループ協議、全体講義、協議、講評となります。

冒頭、小町教育長の挨拶でございます。SDGsは、大人がつくったものだけれども、そこに中身を込めるのは、君たちのような未来を担っていく人たちだ。オープンマインドでどんどん話し合ってほしいと笑顔で語りかけていらっしゃいました。

その中で、協議が始まります。せっかくの小町教育長からのオープンマインドのお言葉がありましたけれども、どうも御覧いただいて分かるように、初めは子どもたちの表情が硬く、距離も空いているような様子が見られます。少し時間がたつと、子どもたちが前のめりになってまいりまして、静かな中でも熱の籠もった話合いになってきました。熱心にメモを取る子どもたちの中に、左側の前方にいる男の子でございますが、タブレット端末を活用してメモを取るお子さんもいらっしゃいました。

その後、全体協議となりました。全体協議では、まず各グループから発表を行いました。ごみ対策、ジェンダーの問題、環境対策、ボランティア活動など、多様な報告がありました。

各グループの発表を受けて、サミットとしてまとめを行いました。ここでもタブレットを活用して記録している生徒さんがいました。我々の考える以上に、子どもたちはタブレットを使いこなしているのだなという印象を持ちました。第四中学校の生徒が、全体として環境を大切にするために周りに働きかけていく方法、一人ひとりと平等に公平に関わっていこうとまとめてくれました。

最後、講評といしまして、私、指導課長のほうから未来の社会を考えてもらったら、人を大切にすることに気づいたこと、一人ひとりを大切にしようとするまとめとなしたこと、これを実現させるには、みんなでみんなのことを大切にして、みんながそろって元気な大人になることが大事だよねというまとめをさせていただきました。

最後に、にっこり集合写真を撮りました。今回の話合いは、各学校の生徒会活動へ役立てられます。各自が持ち帰って活用されるものです。

子どもたちの感想も、アンケートには本当に楽しかった。他校の生徒会と話し合えてよかったです。みんな本当によく考えていてすごいなと思ったなど、有意義な時間を過ごしたことが分かる結果となりました。

続きまして、児童会サミットでございます。生徒会サミットの翌週、12月11日に開催いたしました。参加者は各小学校の代表35名です。

議題は、難しいかなと思ったんですが、中学生と同じ持続可能な開発目標SDGsにチャレンジとしました。どうなったでしょうか。

冒頭、小町教育長から御挨拶がありました。21世紀を生き抜くために必要と言われているSDGs、でも、21世紀の主役になるのは君たちだよねというお言葉がありました。その中で協議が始まります。

小町教育長は、とても優しく語りかけてくださったのですが、子どもたちの距離は御覧のように開いたままで始まりました。ところが、少し時間がたつと、非常に見た目で分かりやすく子どもたちの距離が近づいてまいりました。熱心な話合いが行われました。しかも、このグループは、小学生なんですが、全員が自分の机の上にタブレット端末を置いて話合いを行っています。

話合いの後は、全体協議で各グループからの発表となります。地産地消、食品ロス、環境対策、立川市民科の農業体験など、いろいろな形の報告がありました。

各グループの発表を受けてサミットとしてのまとめをしました。ここでもまとめるためにタブレットを活用している姿がありました。我々はタブレットを導入した当初、子どもたちがどれぐらい使いこなせるかというところを非常に心配しておったんですが、私たちの心配をよそに、子どもたちは新しい道具としてタブレットを自然に使いこなしていました。

幸小学校の児童が全体をまとめてくれました。エコキャップのことや募金活動など、できることから始めていこう。僕たち自身がもっと地域の方々と交流していこうとまとめてくれました。

最後に、小町教育長の隣をみんなで取り合って集合写真を撮りました。子どもたちの感想は、小学校からまちへSDGsを広げていきたいな、本格的な話合いができるとても楽しかった。学校に戻って改めて提案してみようと思ったなど、小学生なりにSDGsに向き合う時間とすることができます。小学生にも価値ある時間となったようです。

報告は以上です。

(市長)

ただいまの説明につきまして、感想や講評がございましたら御発言を願いたいと思いますが、いかがですか。

教育長。

(教育長)

私が初めから終わりまで参加させていただきまして、感想も含めて、子どもたちの様子も伝えさせていただければというふうに思います。

今、報告にあったとおり、このサミット自体、市長が起点となって始めた大町市と立川市の中学生の中学生サミットがございますよね。それは、年1回、相互訪問をしながら、それぞれのまちのよさを情報発信するにはどうしたらいいかということで、一緒に行動して取り組むというものでございます。

これ自体、コロナ禍の中ではリモートを交えながら途切れさせない形で今も続いているわけですけれど、実は、サミットの帰りの電車あずさの中で、中学生が「小町教育長、大町との交流もいいんだけど、実は隣の学校をあまり知らないんです、ぜひ市内でサミットをやりたいんです」という直訴がございましたして、そうだねと。そう言われば生徒会もみんな頑張っているのに、隣の学校はどうなっているというのが分からぬんだね。じゃあ、中学生サミットをやろうということで始めたのが経緯でございます。

本当に、それぞれ生徒会という同じフィールドでございますけれども、学校ごとに取組が、様々な視点によって違って、それをまた共有化することによって、すごい刺激になったといって、また自分の学校に持ち帰るというのは、とてもいい時間ができたなというふうに思っています。

そこに、今度は小学校の児童会のほうが、中学生のお兄さん、お姉さんたちだけずるいと。僕たち、私たちも児童会のサミットをやりたいんだという話がございましたして、だったら小学校の児童会サミットもやろうじゃないかということで、小学校も始めたと。それで、生徒会サミット、児童会サミットとなったわけでございます。

今回、テーマは何にしようかなということで、今までスマホだとか、いろいろなテーマを自分たちで考えて自分たちなりに答えを探していくこうという、そういうワークショップをやってきたわけでございますけれども、その中で、やっぱりSDGsというのは、まさに21世紀、10代の方たちがそこをしっかりと捉えない限り、SDGsの目標も到達できないんじゃないかなという思いがございましたして、実は、学校教育の教科の中でSDGsは取り上げているんですね。だから、子どもたちなりに、実は学んでいます。

今回も各学校で自分たちが学んだことをタブレットの中に入力してきた学校もございまして、既にもちろんSDGsは何ぞやから始まって、自分たちの身近な地域に落とし込んで、じゃあ自分たちは何ができるんだろうということを考えた上で、この生徒会・児童会サミットに臨みました。だからこそ、短い時間だったんですけども、大変に活発な意見交換ができました。自分たちなりに、この地域をよりよくする、それが社会、世界をよりよくすることにつながっていくんだ、そういう気づきがこの中で生まれたことが、狙いを持っていったときには、今回、SDGsで行ったらどうかなと私が提案したときに、いや、教育長、SDGsじゃちょっとハードルが高いんじゃないですかと言われたんですけど、いや、私はあえて子どもたちを信じてやってみようよと言って、それでやってみてよかったですというふうに思います。本当に自分たちの問題として捉えて、そんなに背伸びせずに、地域の中からSDGsを考えていく、そんな取組ができたのではないかなというふうに思っています。

このサミットは、そこで完結するわけではなくて、それぞれ持ち帰って、また自分の学校の中で、それを、生徒会、児童会がリーダーとなって展開する。そういう循環の起點となる取組もあります。そういった子どもたちが報告会を開いてくれたり、朝礼の

中で紹介したり、その後、学校に持ち帰った後も、取り組んでいただいているということの報告を受けておりますので、本当に、この取組はいい循環になったなというふうに思っています。

市長に大町との交流のときに、大人の交流だけじゃなくて子どもたちの交流がないねと御指摘いただいて、大町の生徒会との双方の中学生のサミットを始めたと今さらながら思うわけで、それが今回報告した市内のサミットにも脈々とつながっているということで、本当にいい実践になったなというふうに思っています。我々が考える以上の成果になっているかなというふうに感じております。中間報告も含めてということで、口火を切らせていただきました。ありがとうございます。

(市長)

ほかに、御質問等がございますか。

鳴田委員。

(鳴田委員)

大変ありがとうございます。今、教育長のお話を伺って、清水市長と小町教育長で、大町との中学校サミット、それから、この児童会・生徒会サミットを始めてくださったというのは、本当にすごいことだと改めて思いました。

やはりふだんと違う友達と接して、新しい考えに触れるというのは、本当にすばらしい、いい経験になると思います。

S D G s に関しては、子どもたちのほうがかえって真剣に考えてたり、勉強している部分が多々あると思いますので、これは、どちらかというと大人のほうが教わることが多いのかなというふうに私は思いますので、今、小学校のまとめの中で小学校からまちへという言葉がありましたけれども、本当によく小町教育長が言われている市民科の中で子どもたちから発信して、地域全体がよくなっていくということにつながることだと思いますので、ぜひこれは、今回参加した子どもたちの中ですとか、その周辺の学校の子どもたちだけじゃなくて、まち全体に伝えていっていただけたらなと思いました。

以上です。

(市長)

ありがとうございました。ほかにいらっしゃいますか。

小林委員。

(小林委員)

何かすごくいいものを見せていただきました。子どもたちの力はすごいなというふうに実感しました。大町とのサミットから中学生のサミット、小学生のサミットというふうに自分たちからやってみたいということで広がっていったということがすごいなというふうに思いました。

そして、そのテーマも本当に大人が考えなければいけないような内容のものを、今の年代から考えているというのは、将来が本当に楽しみで、この子たちが大人になったときの社会をぜひ見てみたいというふうに思いました。

そして、最後に、学級に戻って提案したいという小学生の言葉が紹介されていましたけれども、そこがまたこれからも広げていこうという気持ち、もしかしたら学年サミッ

トとか、学級サミットとか、これからますます広がっていくんじゃないかと思って楽しみしております。ありがとうございました。

(市長)

ありがとうございました。よろしいですかね。

それでは、令和3年度「立川市児童会・生徒会サミット2021」につきましては、以上で終了といたします。

(3) 立川教育フォーラムについて

(市長)

次に、立川教育フォーラムについてでございます。

事務局の指導課長から説明を致します。

(指導課長)

私ばかり御説明させていただいておりますので、立川教育フォーラムにつきましては、指導課の統括指導主事の寺田から御報告させていただきます。

(統括指導主事)

では、A3判資料を御覧ください。私から令和3年度立川教育フォーラムについて御説明させていただきます。

このフォーラムは、平成16年度から立川市の教育の充実と推進を図るため、市内小中学校の実践を紹介する場として実施しております。

本年度、第18回のテーマは、「立川市民科で学校も地域も元気に！」といたしました。本年度もコロナ禍においても学校運営はもちろんのこと、立川市民科の取組においても、地域とともにした教育活動を実施しております。学校を拠点に地域を元気にしていく活動がたくさん行われてまいりました。

また、来年度は、教育課程に位置づけて取り組む立川市民科のさらなる充実を図るべくして、今年度の取組を紹介するテーマといたしました。

当日、前半は、児童・生徒の実践発表を行います。まず、児童会・生徒会サミットの御報告となります。現在、立川市でもSDGsの推進に取り組んでおりますけれども、今回、サミットにおいても先ほど御説明しましたとおり、テーマを「持続可能な開発目標にチャレンジ」として熟議しましたので、その報告を児童・生徒が自らいたします。

その後は、4校の学校の実践発表となります。まず第三小学校ですけれども、図工の作品を地域の商店に飾ってもらい、商店街の活性化、また地域貢献につなげた取組をしてまいりました。その報告となります。

また、松中小学校です。こちらも地元のたいまつ伝承保存会と協力いたしまして、地元の畑で、自分たちで種をまいて育てた麦、そちらを使用した商品化を図りまして、その販売であるとか、その利益の活用まで子どもたちを中心に話し合いを行い、それを実践しております。その取組を紹介いたします。

また、身近にある玉川上水の自然や歴史を守るための取組を考えて、例えばごみ拾いだと、そういう実践を進めている上砂川小学校。そして、SDGsの視点で地域の課題を見いだして自分たちで何ができるのかを考えさせている第一中学校の取組。こち

らも児童・生徒、自らが紹介いたします。

また、後半は講演となります。現在、文部科学省国立教育政策研究所所長の浅田和伸先生をお招きし、「教育は人を幸せにするためのもの－教育が未来を創る－」をテーマに立川市民科の取組を踏まえた御講演をいただきます。

昨年度は、残念ながらオンラインでの発表となりましたけれども、現時点では、令和4年2月6日の日曜日、午後1時からR I S U R Uホールにて開催を予定しております。

以上、報告となります。

(市長)

統括指導主事から御説明がございました。このことについての御意見、御質問に移ります。教育長。

(教育長)

若干補足させていただきます。今年度は、立川市民科を中心に据えまして、サミットも報告するんですけれども、テーマが「立川市民科で学校も地域も元気に！」ということで、先ほど来、申し上げているとおり、子どもたちが実践することを通して地域も元気になっていくという状況も発表の中で見られるかなというふうに思っています。

このフォーラム自体が、前は教育委員会の職員が実践報告をしていたんですけれども、数年前から子どもたち自身が発表をする、司会もするというふうに展開をしてまいりました。十分、子どもたちはやれる力を持っております。大人顔負けのプレゼンの工夫も楽しみにしていただければというふうに思っているところでございます。

それから、第2部、浅田和伸先生でございます。文科省にお務めで、そちらで勤めている途中に公立中学校、そちらの校長も経験なさっているという、異例中の異例とその当時言われたんですけれども、教育は現場にあるんだというのが、浅田先生の信念でございまして、その信念を貫き通したということで、かなりウルトラCで文科省から中学校の校長を務めて、それでまた文科省にお戻りになって、今は国立教育政策研究所所長ということでお務めでございます。

私も様々な著作を読ませていただきまして、本当に現場の視点で教育を見ている、それから、子どもたちの成長を本当にサポートする、そういった視点がそういう著作の中にも表れておりまして、ぜひ立川にお呼びして、立川市民科について特に語っていただきたいというふうにお願いしたところ、大変お忙しい方なんですけれども、何とか来ていただけるということで、本当にうれしい思いです。

また、1月の下旬に実際、自分が見ないと、ということで、第一小学校を訪問していくだけで、市民科の実践の内容を見た上で、講演させていただきたいという、逆に御提案をいただきまして、これも私、大変に想定外でして、ぜひ新しい御指摘も含めていただければというふうに思っております。

ちょっと補足説明をさせていただきました。申し訳ございません。

(市長)

これらのことについて御質問等がございましたらお願いします。

小林委員。

(小林委員)

毎年、言われることなんですけれども、集客ですね。私は、学習発表会を何校か見せていただいて、すごくいい内容だったので、内容もそうなんですけど、プレゼンの方法、発表方法をすごく練られていて、もう感心するばかりだったので、これはもうぜひ多くの方に見ていただきたいと思いました。

学校では、学年を区切って、学年の保護者しか見られないみたいな、感染対策で。そうすると、見られる方がすごく限定されてしまいます。今回はR I S U R Uホールなんで人数的にどうかとは思いますけれども、できるだけ多くの方に、この成果を見ていただきたいなというふうに思います。ただチラシを配るだけではなくて、やっぱり来ていただきて、そのよさを感じていただきて、自分も何か協力したいと思っていただけると、そういうことを目指したいので。できたらこういう方に来ていただきたいみたいな、具体的にあって、それで宣伝の基本というか、大勢にビラを配るのではなくて、もうあなたにという感じでやっていくと集客も上がるという、それは営業のお話ですけれども。何か集客の方法を、状況もあるんですが、R I S U R Uホールが今のところ全員オーケーですかね、人数的に。なので、その辺のお考えをお聞かせいただけたらと思います。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

ありがとうございます。本当におっしゃるとおり、大勢の方に見ていただければという思いがございます。当然、私どものほうも、PRの仕方というのは工夫していかなければいけないなというふうに思っているところです。

まず、4校、それから、先ほどの児童会・生徒会サミットも一般の方に御覧いただくことはできなくて、当日はオンラインで配信をするということが環境的に精いっぱいございました。子どもたちも本当に楽しんでやってくれていましたので、そういった様子も含めて1人でも多くの方に見ていただきたいなという思いは、私どもも同じでございます。

そういう意味で、一番悔しがっていたのが学校の先生方だったんですね。サミットについては、もっと見たいのにというところで、お声をいただいているので、まず学校に対して適切に周知していきたいというふうに思いますし、保護者の皆様にも、ぜひ子どもたちが活躍している姿というのは御覧いただければ。そういう形でPRしていきたいなというふうには思ってございます。

また、本市は、全校コミュニティ・スクールの指定をさせていただいてございますので、そういったところから地域の皆様にも広げていけると考えてございます。ただ、感染拡大状況が、今後、どうなるかということが予断を許さない状況でございますので、その両面を両にらみしながら、あまり先走ってPRし過ぎてしまって、実は、すみません、会場内は入れなくて、オンラインだけなんですねっていうところでがっかりさせてしまうのもいけませんので、今後、そういった動向を踏まえながらきちんと両にらみで回しながら進めていかなければいけないかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

(市長)

よろしいでしょうか。それでは、このことにつきましては終了とさせていただきます。

3. その他

(市長)

続きまして、次第の3、その他に移ります。

事務局の企画政策課長から説明をお願いします。

(企画政策課長)

本日は、ありがとうございました。

本日の議事録につきましては、後日、委員の皆様に御確認いただき、市ホームページ、市役所3階の市政情報コーナーで公開いたします。

なお、次回の総合教育会議につきましては、来年度、4月以降に開催を予定しております。日程調整をさせていただきましてお知らせいたしますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

(市長)

それでは、企画政策課長より議事録の確認、次回の教育会議の開催日程につきまして説明がございました。このことについての御意見はございますか。

それでは、なしということでございますので、以上をもちまして、令和3年度第3回立川市総合教育会議を閉会いたします。大変お疲れさまでございました。御協力感謝いたします。

——了——